

西区を豊かに

2019年
9月1日発行
第30号

発行者 新潟市西区自治協議会 会長 下川 照雄

事務局 〒950-2097新潟市西区寺尾東3丁目14番41号 西区地域課内
TEL: 025-264-7161 FAX: 025-269-1650
メール: chiiki.w@city.niigata.lg.jp



西区の宝物をたくさん詰め込んだロゴマークです。新潟すいか、赤塚大根、くろさき茶豆、佐潟の白鳥。その上に日本海に沈む夕日と大学を表す博士帽を乗せました。

自治協議会
第7期スタート

ココがホームタウン! もっと好きになれる街に

西区の皆さんへ

残暑お見舞い申し上げます。

新潟市西区自治協議会の第7期(平成31年度～令和2年度)が4月からスタートしました。

安心して暮らせる、住みやすい西区を目指して行政の取り組みや委員の活動を皆さんにお知らせします。

この広報紙「西区を豊かに」は今年度から年3回の発行となり、より読みやすいタブロイド判で新聞折り込みとなります。

西区が課題解決に向けて取り組んでいることを分かりやすく市民の皆さんにお伝えしていくつもりです。

一緒に西区のことを考え、読者の皆さんからも様々なご意見をいただけるような紙面を目指していきます。

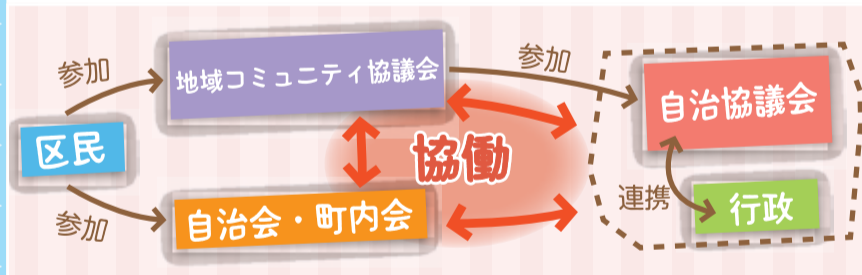


Q 自治協議会って?

A 新潟市が政令指定都市となった平成19年4月から発足しました。分権型政令市を実現するため行政と市民の協働によって住民自治を目指している市長の附属機関です。協働とは、「お互いの立場や特性を認め合い、対等な関係で目的を共有し、協力して共通の課題を解決すること」を言います。

Q 誰が参加しているの?

A 地域コミュニティ協議会や社会福祉協議会、まちづくりに関わるNPO法人などの代表が活動の企画から参加しています。西区では、新潟大学や新潟国際情報大学の先生、学生など全部で36人の委員がいます。



自治協議会ってこんなトコ

Q どんな活動をするの?

A 本会と5つの専門部会で活動しています。本会では、自治協議会委員と西区長や区役所の担当者が一堂に会し、地域課題解決に向けて意見を交換したり、質問を行います。内容は「防犯・防災」「子育て」「まちづくり」など皆さんの生活に関わりの深いことについてです。部会では担当のテーマ毎に深く話し合いを進めます。例えば「防災」を所管する部会では、避難情報の伝え方の確認や問題点など地域の実情を交えながら話し合います。

Q 区民が関わることはあるの?

A 自治協議会の本会は毎月開催しており、傍聴することができます。また、西区アートフェスティバルや「地域課題解決に向けた事業」(詳しくは裏面をご覧ください)など参加していただける取り組みもあります。詳しくは、今後の本紙や西区役所だよりに掲載していきます。



部会の専門テーマ

第1部会 防犯・防災、自然環境、住環境

<前期の活動>

防犯と防災に関する講演会、防災カードの作成・配布

<重点的に取り組む地域課題>

管理不全な空き家にしないための取り組み、自治会役員や民生委員など地域の担い手育成



第2部会 保健・福祉、文化・スポーツ、教育

<前期の活動>

健康寿命の延伸に向けた講演会、スポーツ鬼ごっこ・カーリンコンの普及啓発、人口減少社会に対するまちづくりのためのワークショップ

<重点的に取り組む地域課題>

自治会役員や民生委員など地域の担い手育成、支え合いのしくみづくりの輪を広げる取り組み

第3部会 産業、区の魅力発信、交通

<前期の活動>

新潟大学の学生と連携した区の魅力発信、内野地域の商店街などの活性化に向けた研究・実践

<重点的に取り組む地域課題>

区の魅力発信・賑わい創出

広報紙特別部会

この「西区を豊かに」を作成しています。今年度は、今号を含め3回発行予定。

アートフェスティバル特別部会

西区で活動している音楽・芸能団体や西区にちなんだアート作品の発表の場として「西区アートフェスティバル」を開催。こしは10月26・27日に西新潟市民会館で実施します。

担い手育成・プログラミング
講座などを採択

地域課題解決に向けた 事業募集の採択事業を決定しました

複雑多様化する地域課題にきめ細かに対応していくため、昨年度に引き続き西区自治協議会として課題解決に取り組む4つのテーマについて、事業を募集しました。

計5事業の応募をいただき、まずはテーマを所管する担当部会が事業内容を確認し専門的な見地から意見を付けました。その意見を参考に、会長、副会長、各部会長、地域課長で構成する審査委員会で方向性、実効性、有効性、継続性、地域性の5つの評価基準から、書類による一次審査、応募団体のプレゼンテーションと質疑応答による二次審査を行い、3つの事業を採択することを決定しました。

今後は、提案団体と協力し合いながら、課題解決に向けて取り組んでいきます。

開催日程や事業報告は、今後の本紙や西区役所だより、区ホームページ等でお知らせしていきますので楽しみにお待ちください。

募集テーマ

- 管理不全な空き家にしないための取り組み
- 地域の担い手育成
(自治会、民生委員・児童委員)等
- 支え合いのしくみづくりの輪を広める取り組み
- 区の魅力発信・賑わい創出

応募事業数 5事業

採択事業数 3事業

採 択 事 業 一 覧

テーマ 地域の担い手育成
(自治会、民生委員・児童委員)等

事業名 地域内の関係づくりと自治活動への参加を促す行事カレンダーづくり

提案団体 特定非営利活動法人
まちづくり学校

事業概要 年間行事や事業をまとめたカレンダーの制作を通して、モデル自治会などの行事や事業の洗い出しを行う



テーマ 支え合いのしくみづくりの輪を広める取り組み

事業名 「プログラミング教育」を通じた教育支援環境の構築と人材活用

提案団体 大人向けプログラミング勉強会

事業概要 2020年度に小学校に本格導入されるプログラミング教育について、小学生や保護者を対象とした講座、小学校での時間外・課外活動を通じた小学生対象の「課外講座」を実施



テーマ 区の魅力発信・賑わい創出

事業名 西区の歴史・文化・技術の記憶を200年後の未来の人々へつなぐ

提案団体 越後新川まちおこしの会

事業概要 新川開削200年に向けて、十返舎一九を主人公とした新川開削物語を映像化し、新川を発信



とうぞう ウチノ食堂 藤蔵 ～日常が交差する四ツ角の食堂～

内野町の商店街には一風変わった食堂がある。その名も「ウチノ食堂 藤蔵」。オーナーはこの町で生まれ育ったという野呂巧(のろ・たくみ)さん。お店は空き店舗になっていた鮮魚・仕出し屋を改装するところから始まった。オープン前から食堂を開こうと決めていたわけではなく、改装中にお店の雰囲気から、レストランでもカフェでもなく「食堂」に決めたそうだ。実際に訪れてみると、初めて来たのに店内はどこか懐かしく、暖かい雰囲気があり、まさに「食堂」という名前がぴったりだと感じた。

開店したのは2017年5月1日。この店一番人気のメニューは「イツモの定食」。ほかにもスパイスカレーや季節のフルーツを使ったチーズケーキなど、地域の素材、季節の食材にこだわった料理を提供している。料理が美味しいのはもちろんのこと、惣菜の持ち帰りもでき、幅広い年齢層から愛されている。「商売とは暮らしそのものであり、ビジネスではない。まちの音が聴こえてくることが四ツ角の良さでもある」。野呂さんに会いに来る人も多いという話を聞き、まさに野呂さん自身も魅力のひとつだと思った。

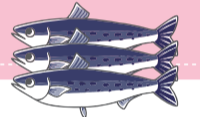
「周りで新しいことを始める人が増え、小さな芽が育つお手伝いを少しでも自身ができればと思っている」と語る野呂さん。美味しい料理と一緒に、野呂さんやお客さんとの会話を楽しむことで、素敵な出会いも生まれる。この食堂での偶然が運命の出会いに変わるかもしれない。



ウチノ食堂 藤蔵

〒950-2112
新潟市西区内野町1053-1(内野四ツ角)
営業時間 12:00～18:00(水～土曜日)
<https://kitchen-uchino.com/>

知っとなつ 街のタネ



五十嵐浜の漁業あれこれ

五十嵐浜に人々が住み始めたのは、戦国末期と言われます。「砂丘海岸沖を航行していた舟人が、海中に青い固まりを見た。近寄ってみたら大羽イワシだった。獲っても獲っても尽きない漁場ということでここに居ついた」(内野町誌に載る口碑)

話にある五十嵐浜のイワシは、大正期に大漁期を迎え、多いときは浜に大羽イワシの山が築かれるほどだったと言います。

商人にも卸しましたが、浜の女衆は天秤にザルを括り付け、400匹くらいのイワシを入れ、一時も早く新潟町にと売りに走りました。鮮度を落とさないため砂のついたままザルに入れて運んだそうです。

秋になるとカタクチイワシが獲れました。小さい物は、砂浜に広げて乾燥し固めて肥料にしました。これを干鰯(干しか)と言い、元治元年(1864)「越後土産初編」に登録、紹介されています。

また砂浜にむしろを敷きその上で乾かして作った干しこは、出稼ぎ先での大切な現金収入でした。ワカメは、乾燥したものを水に浸し砂をまがして売ると色目よく人気があり量も増え収入増。しかし、「五十嵐浜のわかめは砂だらけ」とはやられました。

出稼ぎは春祭りの終わりからお盆まで、秋祭りの終わりから年の暮れまでの長期間、関東一円・甲州・会津・信州あたりによく出向いたそうです。

イワシが戦後統制品になり自由販売禁止になったことがありました。そんな中、女衆はこっそり関屋辺りまで売りに行きましたが、警察官に見つかり、他人の家の二階にかくまってもらったという話を聞きました。大漁続きだったイワシは昭和31年ころから不漁の一途をたどりました。今の新川漁港では、カレイ、ヒラメ、カニ、おなじみのタコ等があるそうです。



資料:内野町誌(昭和35年)、新潟市合併市町村の歴史第一巻(昭和50年)

新川右岸に係留されたいわし漁船と網干し場、黒い屋根は油絞め工場
新潟市所蔵/青池国政氏撮影

編集後記

広報紙「西区を豊かに」も第30号を迎え、紙面も今回からタブロイド版でお届けいたします。

4月から新たな自治協議会メンバーが編集委員となり、先輩方が試行錯誤の中、築き上げた広報紙のスタイルに「分かりやすさ」を新たなテーマとして、写真やイラストなどを取り入れた紙面構成と幅広い世代から興味を持っていただける記事の掲載を心がけて参ります。

また、皆様からの感想、意見などございましたらお気軽にお聞かせください。(長澤 良徳)



●広報紙や自治協議会活動についてのご意見を募集しています。住所・氏名・連絡先をお書き添えの上、広報紙表面の「事務局」あてに郵送または電子メールにて送付ください。

- とっておきの私の一枚 ◆あなたの「自慢の写真」(家族・風景・イベント・ペット等)に住所・氏名(氏名必須、ペンネームがあればペンネーム掲載)・連絡先・写真タイトル・一言コメントを添えてご応募ください。(電子メール可) ◆採用者には千円の図書カードを贈呈。◆応募写真は返却しません。◆締め切り9月末日(次号掲載予定)。◆送付先/広報紙表面の「事務局」あて



パソコン
スマートフォンでも
ご覧になれます!
Web版
「西区を豊かに」